

②一般（大学生以上）の部 最優秀賞

受賞者名： 下鳥里美 様

能楽 - 変化の風

「これは現実か？ただの幻想か？地滑りに捕われてしまった。現実からは逃れられない…。私の英国人の友人クリスは、「ユネスコ記念能」の『葵上』を観た後に、能楽をクイーン（※英国のロックバンド）の大ヒットロックオペラ『ボヘミアン・ラブソディ』に例えた。

英語字幕や原作に関する予備知識の助けもあり、クリスは物語が進むほどに、能楽の深く神秘的な世界へと没入していった。能楽堂を出た後、クリスは興奮して言った、「信じられないくらい素晴らしかった。早くイギリスの友達に話したい、待ちきれないよ！」。

これとは対照的に同僚のローザは、「数年前に友人たちと能楽を観たけれど、難しい上にドラマ性がなく、つまらなかった」と不満をもらしていた。がっかりするような批評だが、今回のクリスの熱狂的な反応は、「能楽が秘める魅力には国境がない」という私の信念に再び火をつけた。

私は、能楽が日本で最も重要な無形文化遺産であることを訴求したい。更に、この伝統文化を世界に知らしめ、ファンを増やす手助けをしたいと強く願っている。私は長年、グローバルマーケティングとPRの仕事に携わっており、エンゲージメント（※繋がりや絆から生まれる行動）を高め、マーケティング戦略をローカライズ（※地域や状況に合わせて最適化すること）するだけでなく、いわゆるベスト・プラクティスについても熟知している。

能楽鑑賞の鍵は「参加すること」である。能楽はしばしば高尚で少し古臭いと考えられているが、それには全く同意できない。私が能楽に熱中するきっかけとなったのは、初心者向けワークショップへの参加だ。日本人であるにも関わらず、全てが新鮮で、夢中になって引き込まれるほどに楽しくなっていた。

字幕付きの上演が難しい場合、日本語を解さない観客には、舞台の進行が分かるように英語の資料が必要だろう。時間に余裕がある観客には、より完全なプログラムを提供したい。例えば、能楽堂内のツアー、お囃子の楽器演奏体験、あるいは装束付け体験、写真撮影など、能楽が持つビジュアル的な魅力を生かした内容だ。旅行会社や、日本オリンピック委員会、能楽協会等と協力して、観光客向けのユニークな能楽を企画する。既存の薪能や観光客向け能楽公演を拡張して、他の文化イベントと合わせて実施すれば、能楽本来の美しさを強調できる。私が調べたところでは、能楽の国際化に向けて多くの能楽師や能楽サークルが、個人的に公演を主催している。しかし、そのほとんどは、サポートが不十分か、あるいは持続性に欠けている。もっと密着した組織的な投機が行われるべきである。またプログラムの企画や助言、翻訳の手助けをしてくれる熱意のあるボランティアの採用も必要だ。

戦略を実行案に落とし込む段階では、「歩み寄り」が鍵となる。一方で、私は能楽の本質的な精神を損なうことなく、その伝統的な形態を維持したいと考えている。スーパー歌舞伎は、新しい観客層を呼び込むことに成功した。しかし、能楽の持つ歴史と深く根差した伝統を考えると、この方法は適切ではないように思う。許容でき、おそらく必要となる折衷案として、上演時間の短縮や、登場人物の役割や物語の筋が明確なダイナミックで分かり易い曲を選択することも視野に入れたい。

初めて日本を訪問する観光客に頼るだけでは、充分とは言えない。能楽への興味を喚起するために、口コミによる拡散の仕組みを作るべきである。そこで私は、「アンバサダー（親善大使）・プログラム」を提案する。旅行者がブログや SNS やコミュニティー誌で彼らの能楽体験を共有するのと引き換えに、何らかのサービスを提供するのだ。クリスが能楽をロックミュージックに例えたように、能を自分たちの文化的思考の中で捉えて欲しい。英語の能楽の本は多数、出版されているが、自分の言葉で語ることは、ずっと個人的で意味があることである。デジタルやイメージを重視する世代にとっては特に、より多くの人々に情報を拡散する力となる。

海外の大学の多くは、日本文化に関するプログラムを運営している。これらの機関とのパートナーシップを発展させれば、授業のカリキュラムに能楽を組み込み、学生たちが「アンバサダー・プログラム」に積極的に参加する機会を設けることができる。イベントやワークショップの参加者、あるいは主催者として、多くの人々の関与が見込める。そして最後に、これらのプログラムは現実的で実現可能で、ニーズに沿っていなければならない。例えば、若手能楽師を起用すれば、ワークショップの経費を抑えられ、同時に新しい才能に伝統の門戸を開くことができる。

長年の経験から、私はこれが成功への道筋だと確信している。私は能楽が持つ潜在的な力を信じている。これは幻想ではなく、私が達成すると決めたゴールである。「私を止めないで…」。(※『Don' t stop me now』：クイーンの曲名)